



その本の核心をつかみとろう！——入選の秘訣！

書評 vs. 読書感想文

- 書評 (book review) とは、まだ読んでいない人に「その本の価値」を紹介する文章。
- 「その本の価値」とは、「読むことで世界の見え方がどう変わるか」ということ。
- 読書感想文と似ているが、感想文は「自分」の思ったことが中心、書評は「その本」が主役、という違いがある。
- 自分の感想を超えて、その本の「核心」をぐいっとつかみだすのが書評。
- 書評では、「ここが核心だ」と思うところを、読んでいない人に分かるように説明する。
- 自分が読んだ時の感想は、出発点としてはとても重要。書評の中に書かれていてもいい。しかし、感想で終わってしまうと書評とは呼べない。

書評 vs. 課題レポート

- 読む人によって刺さるポイントは変わる。どこを「核心だ」と思うかは書評者の個性。自由でいい。
- 重要なのは「その本の核心が何か」ということ。どうして「ここが核心だ」と思ったのか、その根拠を丁寧に書くことが大切。
- そのためには、その本の内容に踏み込んで説明していく必要がある。
- 本の内容を要約して考察するという点では、課題レポートと似ている。しかし、書評の目的は、まだ読んでいない人に向けて、その本の価値を伝えること。全体の内容を章ごとに要約する必要はない。
- 書評は核心をつかみとる眼力と、言葉で説明する力が試される。

おまけ

- 「〇〇な人にはぜひ本書を読んで欲しい」といったオススメは、「核心」を伝えるのに必要でないなら意味はない。文章力も重要。応募する前に、誤字脱字はもちろん、分かりにくいところがないか、きちんと確認しよう。書いたものを友だちに見せて指摘してもらうのもいい。

書評を書くのに参考になるものは？

新聞(全国紙)には毎週「書評欄」が掲載される。図書館には「週刊読書人」という書評専門の新聞もある。いろんなスタイルの書評があるから参考にしてほしい。

【個人的な書評集】

米原万里『打ちのめされるようなすごい本』
小泉今日子『小泉今日子書評集』
又吉直樹『第2図書係補佐』
齋藤美奈子『文庫解説ワンダーランド』

Webページでも紹介しているよ
<https://www.lib.cuc.ac.jp/support/bookreview>



推敲しよう!! 伝わる&良い「書評」を書くために…



今野晴貴『ブラックバイト—学生が危ない』(岩波新書)

「若者の使い潰しの連鎖が、この国を覆っている。」

→) あとがきの冒頭の一文だ。

私の周りでも多くの学生がアルバイトをしている。その中で、ブラックバイトを経験したことがある人が多いのではないかと、作者によれば、ブラックバイトの特徴は、「学生の『戦力化』」「安く、従順な労働力」「一度入ると、辞められない」の3つだ。

著者は、学生の「戦力化」とは、「学生の生活全体がアルバイトに支配されてしまう状況」のことをいうらしい。たしかに私も毎月100時間以上アルバイトしている。アルバイトで一週間が終わっていくのは辛い。もう少し学生らしく、例えばサークルなどにも参加したいのだが、学費を払うための仕事がない。せめてアルバイトで得られる経験をいかして、まともな企業に就職したいと思っている。には

著者は、ブラック企業は、アルバイト会社は結果責任を負ってこそ得るもの、学ぶものがあると巧妙に訴えかけると述べている。たしかに私も、アルバイトの経験をいかして、しっかりした企業に就職したいと思っている。そうした心理を企業は利用しているのだ。

私もバイトのシフトが急に入れられて困ったことがあります。

しかし、店長に私が引き受けないとお店が回らなくなってしまおうとかわれて、仕方なく授業を休んで引き受けました。結局その日に提出する授業レポートを出せなかった。実際著者は、1983年生まれ、労働社会学と社会政策を専門に学ぶ大学院生です。じつはにブラック企業対策プロジェクトで多くの相談を受け、解決してきたエキスパートです。本書はその相談の経験をもとに書かれているだけに、とても実感がもてた。あ

これって、「著者」の意見?
私が考えたこと?
そもそもホントなの??



“です・ます調”と“である調”
混じっちゃった!
“一字下げ”や漢字のミスも☑!!



“推敲”が終わったら、
もう一度!
声に出して、読んで確認!!

文章の書き方は、
図書館2F [「ライティングサポートセンター」](#)
(WSC) で相談できます。
普段から活用して、文章力を上げましょう!!

